

# 計測を受ける際の注意点

## ①セールナンバーの確認

受付とヤード(計測場)でそれぞれ必要項目を確認します。

### (1)受付時の確認

エントリーシートに書いたセールナンバーと実際にレースで使用するセールナンバーが同じかを確認します。

### (2)ヤードでの確認

レースで使用するセールのセールナンバーが出艇リスト上のセールナンバーと同じかどうかを確認します。

- ・セールを実際に展開させてセールナンバーを目視して確認します。
- ・艇体番号とそのセールナンバーが同じかどうかを確認します。異なる場合はセールナンバー変更届を提出します。(クラス規則第2章4(e) ii)

※チャーター艇を使用する選手で艇体番号とセールナンバーが異なる場合は  
セールナンバー変更届を提出して下さい。

※別々のクラスにおいて、同じセールナンバーを使用する事は可能です。

### (3)セール番号位置の確認をする場合 (クラス規則第2章4(c)第4章29.30)

まず、スターボードサイドを表にして、ラフスリーブを右側にして置き、

#### ①スタートポイント 100mm±12mm を確認します。

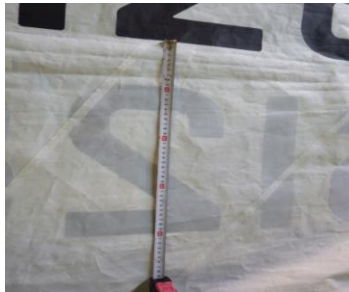


#### ②スタンダードはミドルバテンポケットのところにあるパネルのシームの下端から400mm±12mmを確認 ポート側はスターボードの下端から400mm±12mmを確認します。

ラジアルはミドルバテンポケットの下端から400mm±12mmを確認します。

4.7はミドルバテンポケットの下端から270mm±12mmを確認します。

☆スタンダードとラジアル、4.7は基準線が異なります！



#### ③番号の間50mm以上(4.7では30mm以上)を確認します。



艇体番号の識別(主に4種類あります。艇体番号148200以降は③か④です。)

①



②



③



④



①はスターンにPSN1115110682とありますが艇体番号111511です。

②はスターンにPSN136117とありますが艇体番号136117です。

③、④ 6桁の数字で記載されています。



計測項目がすべてOKになったら、セールにスタンプが押されます。

押す場所はポート側のセールボタン付近です。

(ゴム製の赤色円形のもののがセールボタンです。)

※スタンプの印影のそばに年月と計測員のイニシャルを付記します。

## ②バテンの確認

レーザーのバテンには4.7、ラジアル、スタンダード用の従来からのバテンとスタンダードクラスMK II セール用の2種類のタイプがあります。

従来型では、バテンの両端のキャップに付されたレーザーの刻印(①)を

MK II セール用スタンダードクラスのタイプのセールバテンは表面に記載のLaser印字を

確認し、正規品の判別の一つとしておりましたが現在流通している正規品の中に刻印・印字のないものがあることから、正規品であるかどうか分からない場合は計測員にご相談ください。

※壊れたキャップは使用できません。

※バテンキャップの周囲にテープを巻いている場合(③)があります。バテンをバテンポケットから抜く時に引っかからないようにしているものならOKです。

①



②



③



### ③マスト抜け止めの確認 (クラス規則第2章3(b) xi)



・抜け止めをつける目的は完沈してもマストが抜けないようにすることです。  
※完沈してマストが抜けかかっている艇を起こすときにマスト底部が口マストホールの内壁を壊す恐れがありますので、艇が完沈しても口マストが**最大でも5cm程度**で抜けかかったところでとまるよう調整して下さい。

※短すぎるのは違反ではありませんが180°以上回転できるほどの緩さがないとブロックブレードに大きな負担がかかります。

### ④センターケーステープの確認 (クラス規則第3章14(d))



・大きさ(一辺が3cm以下の四辺形)厚さ(2mm以下)の一層シールであるかを確認します。

※センターボードの曲面に合わせるための切り込みはOK。

※貼り付け箇所は、写真のような一か所だけになります。

また実際には接着層があるので2層になりますがこれはOKです。

※このテープはセンターケースの前面内側上端がこすれて、穴が開くのを防ぐための部材です。

※センターボードがひとりでに上下する物を抑えるものではありません。この点を誤解している選手が多いので注意してください。

**※センターボードケース内への貼り付けは一切認められておりません！(例:敷居すべり)**

### ⑤ラダー・センターボードの確認 (クラス規則第2章3(a) iv)

浮彫(レリーフ)が入っている場合がありますが、これだけでは違反です。

純正シールは年代によって色が違う場合がありますが、これは問題ありません。

ラダーはラダーヘッド(①)とブレード(②)は別部品なのでそれぞれにシールまたは刻印がなければなりません。ラダー、センター(③)とも先端がとがっていてかけやすいので計測員はできるだけラダーやセンターにはさわらず、選手に自分でラダーやセンターを持ち上げさせて計測員に向かってシールを見せるよう指示します。

**※シール、刻印とも無い場合は、パフォーマンス社に確認を依頼し、適合した場合にはシールを貼ってもらってから再度計測に持ってくるようにしてください。**

①



②



③



④

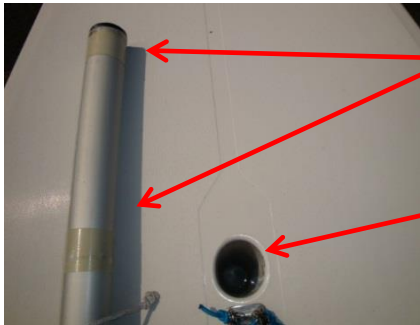


①②③は現行、④は旧式のシール

## ⑥ マストホールの確認

マストホール内部とデッキ周辺を確認します。

マストステップの磨耗を防ぐため貼り付けられたチューブ、カラーも同時に確認します。



マストステップの磨耗を防ぐため、1mm未満の均一な厚さのチューブやカラーを1個、ボトムマストまたはマストホール全周にわたってとりつけてよい。このチューブまたは

デッキレベルから10mmよりも上に出てはならない。または、1mm未満の均一な厚さの円板を1枚マストホールの底にとりつけてよい。(クラス規則第3章19)

→つまりそれ以外はだめ！

## ⑦ バウラインの確認

ロープ直径が6mmで長さ5m以上であることを確認します。

長さ以外にバウアイに一端が結ばれているかも確認します。



※なおこの項は公告か帆走指示書でバウラインの設置を規定している場合のみ適用されます。

### \* 以上の他のチェックポイント

以上の他にもルール上チェックすべきポイントが多くあります。以下にそれらのうち若干を記載しますがルールブックを参照してもわからない場合は判断を保留して公式計測員に問い合わせてください。

- ・ルール上純正品が指定される部品に使用されてるか。
- ・製造時の基本的な形状、特性、機能に影響を与えるような補修やメンテナンスをしてないか。
- ・シートの取り回し方。
- ・カニンガム、ブームバング、アウトホールのコントロールシステムに「オプションの」ブロックの使用が許可されているが、そのシーブの直径は15mm未満であってはならず、かつ30mmを超えてはならない。(クラス規則第2章3(b) iv)

### ・ハイキングストラップ周辺の構造

- ・シングルブロックまたはダブルブロックのみを「オプションの」ブロックとして使用できる。(クラス規則第2章3(b) v)
- 従って、シーホッパーのバングに使用されているような3連ブロックは使用できません。

### \* 注意事項

- ・スパー、フォイル(ラダーヘッド)等には純正パーツを証明するステッカーが必要です！ステッカーがついていない場合、事前に現物をPSJ(パフォーマンスセイルクラフトジャパン)にて確認され、正規品か否かの判断を受けてください。